

合志市の特産物と天草の「海の幸」が並ぶ新たな物産施設「ふるさと名物こうしマルシェ」が6日、合志市野々島の温泉施設「ユーパレス弁天」敷地内にオープン。初日から大勢の市民が買い物を楽しんだ。

ユーパレス弁天 敷地内

## 広域連携「マルシェ」開店



天草の特産品コーナーを見て回る買い物客ら＝合志市

# 天草の魚介 合志で買える

施設は木造平屋約750平方メートル。合志市の外郭団体「クラツ」が中

1億8千万円かけ建設した。運営も両者が担い、年間5億円の売り上げを見込む。

天草、上天草の両市と8月に結んだ広域連携協定に基づく「地産地消のアンテナショップ」との位置付け。約500平方メートルの売り場にハクサイやイチゴ、精肉といった合志市の農産物、天草産の刺身や干物などを並べる。

「天草・上天草地域物産展」（11日まで）も始まり、買い物客が揚げたての「うにコロッケ」やキビナゴのフライ、生わかめなどを買い求めている。

記念式典では、荒木義行合志市長と中村五木天草市長、堀江隆臣上天草市長らがテープカットで祝った。荒木市長は「地域間の競争ではなく連携で、両全体の地産地消を図りたい」と述べた。

弁天敷地内にある既設の物産館は売り場を縮小し、花き類だけを扱う。（林田賢一郎）